

2020年(令和2年)8月4日(火)

「ネパールにマスクを」

三島市のNPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)が、ネパール日本友好協会(山梨県大月市)と協力し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにネパールに届けるマスクの寄贈を募ったところ、6474枚ものマスクが集まった。GW三島の渡辺専務理事は「余ったアベノマスクが集まるのではと想像していたが、手づくりした人や買い求めてくれた人が多かった。」



集まったマスクを手にする渡辺専務理事
三島市芝本町のグラウンドワーク三島事務所

GW三島 寄贈呼びかけに6474枚

遠くて縁も薄いネパールの人を心配する日本人の優しさに感動した」と喜んでいる。GW三島は、2015年のネパール大地震の被災者支援をしたり、首都・カトマンズの世界遺産の寺院にバイオトイレを設置する計画を進めたりと、ネパールと交流がある。現地の衛生状態が悪く、新型コロナウイルスの感染も広がっているため、6月中旬からマスクの寄付を呼びかけていた。

集まったマスクの内訳は、市販不織布マスク4378枚▽市販布マスク242枚▽手づくりマスク1036枚▽アベノマスク818枚——だった。また、マスクのほかに、固形せっけん134個▽液体せっけん11本▽フェースシールド12個——なども寄せられた。

1人で114枚のマスクを手づくりした女性、集めたアベノマスクに髪の毛などの異物が混入していないかを開封して検品してから寄付した人もいた。渡辺専務理事が都留文科大特任教授を務めていることから、北海道や山口県の教え子からも届いたという。

ネパール航空が、ネパール大使館職員や日本に取り残されたネパール人の帰国のため、8月中旬に特別便を飛ばすことを計画しており、マスクはこの特別便で現地へ送るといふ。

【石川宏】